Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-08-10

第3章 歴史資料・災害資料の保全・活用

吉川, 圭太
木村, 修二
奥村, 弘
室山, 京子

(Citation)
歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業,16(平成29年度事業報告書):44-45

(Issue Date)
2018-03-16

(Resource Type)
report part

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81010244

第3章
歴史資料・災害資料の保全・活用

歴史資料ネットワークへの協力・支援

1．災害対応

2017年7月に発生した九州北部豪雨災害では、歴史資料ネットワークと協力して被害情報の収集及び共有につとめた。また、歴史資料ネットワークが定期的に実施している東日本大震災津波被災資料（岩手県大船渡市S家資料）の整理作業に協力した。

（文責・吉川圭太）

2．神戸市兵庫区平野地区における活動

本年度も「奥平野古文書勉強会」が毎月1回（第2日曜）開催され（8月、10月は休会）、すべての例会で木村がチューターを行った。

（文責・木村修二）

石川準吉関係資料の調査

石川準吉関係文書については、目録作成が終了し、今年度、国立歴史民俗博物館がその基本部分を購入した。生野鉱山関係の史料については、今後もその保存活用の方策を考える必要がある。

（文責・奥村弘）

附属図書館震災文庫への協力

本学の震災復興支援・災害科学研究推進室からのサポート経費に基づき、災害資料学の実践的研究を附属図書館とともに行なった。

2017年度は、災害資料の公開に関する研究会（6月15日、於自然系図書館）を開催し、神戸都市問題研究所の杉本和夫氏を講師として、東日本大震災以降の震災デジタルアーカイブにおける公開のあり方と個人情報の課題等について議論したほか、国際シンポジウム「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立を目指して」（11月11～12日）に協力し、アメリカ・韓国などでの災害アーカイブの展開を踏まえた国内外のネットワーク強化をはかった。

2018年1月29日には、第7回被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会（於社会科学系図書館）を開催し、岩手・宮城・福島の公立図書館及び大学図書館、国立国会図書館などからの参加を得て、震災資料のメタ情報記述や公開活用に関して意見交換を行った。

また、附属図書館で開催された企画展「阪神・淡路大震災と地域の復興―23年目の神戸と地域・コミュニティの課題―」（2018年1月11日～2月1日）では、3部構成展示のうちの第1部「阪神・淡路大震災を見つめる―大木本美通氏追悼―」の企画制作を手がけるなどした。

（文責・吉川圭太）

人文学研究科古文書室の所蔵文書整理

2017年8月から人文学研究科古文書室所蔵文書の整理に従事している。今年度は「御影村文書」目録の校正・情報追加などの再整理をおこなっている。同文書が収納された中性紙古文書箱21箱のうち2018年2月19日現在で17箱分の再整理作業を終え、今年度内に全箱分の作業完了を予定している。

御影村文書は明治22年の町村制施行により合併した御影町（御影・石屋・東明・郡家）と魚崎村（魚崎・横屋）を含む現神戸市東灘区南部地域の文書群であり、近世・近現代の約1,600点を有する。内容は支配・貢租、水論、御影村共有地の地券、水論、海岸部の諸産業、酒造関係、社寺、学校、約100点の絵図類など多岐にわたっている。今後多くの方面で活用されることを期待したい。

（文責・室山京子）